

言の発ぎ

父の影響だろう

か、子供の時から絵を見るのが好きだった。そのせいか、三百五十八種類の色を掲載した「色の手帖」という本を開くと、日本固有の色名に想像力をかきたてられたりする。

ファッション業界では、流行色研究所といった機関が世界からあらゆる情報を収集した上で、今年の色を発表するという習わしがある。一、二年前の色は、ピスタチオ・グリーンだったと記憶しているが、発表した色が必ずしも売れるとは限ら

ない。

さて、色にまつわる話をも一つ。正月のテレビ番組に出演した時のこと、司会者から突然「女の色気とは、何だと思いますか」と聞かれ、絶句してしまった。テレビカメラの前で、焦った頭は空回りするばかりで、

色の話

そのうちに話題が変わって命拾いした。

モノの販売業を長年やっているせいか、即物的な現象にはすぐ反応するのだが、抽象的な概念にはからつきし弱い自分を発見してびっくりした。そこで、遅まきながら勉強を開始した。

辞書によれば、色気とは異性を

をひきつけるそぶり・なまめかしさである。しかし、周りの人に聞くと、答えは千差万別であり、その人の実体験が垣間見えるようで面白かった。そして、最後に行き着いた結論は、色気とはインテリジェンス（知性）とミステリアス（神秘性）から成るといふもの。

過剰な色気は他人を辟易（へきえき）とさせることがあるが、適度の色気ならばあった方がよい。それは、街や企業にしても同じだ。「インテリジェンスでミステリアスな熊本」キャンペーンで、異性ならぬ他地域の興味と関心をひきたいものだ。

かめい 亀井 創太郎 (通産省 亀井社長)